



学校だより

コロナ禍を超え、三月に向けて

副校長 渡辺 賢志

現在、日本全国で新型コロナウイルスのオミクロン株の猛威が振るっています。特徴として、潜伏期の短さや、基礎疾患のない方は重症化しにくい等の情報がマスコミ等を通じて伝えられています。専門家の方々の研究結果は日々新しく、中・長期的な対応を適切に提示することがとても難しいです。そういった中、本校では、国や東京都の方針を踏まえて作成された大田区のガイドラインを踏まえて学校運営を行っています。さらに、子供たちが安全・安心な学校生活を送れることを第一に考え、より効果的な感染症対策を考案しながら、粛々と日々をこなしてまいります。そして、蔓延状況を十分に考慮した上で、行事等をどのように行うかを教職員全員と共同に、PTA役員の方々や学校運営協議会の方々のお知恵を借りながら、何とか具現化しているのが現実です。送室から各教室への放映で行われ、その後の生活指導等の話も放映で行われました。

そして、大掃除の後に書き初め会が行われました。オープンスペースを十分に活用してソーシャルディスタンスを確保し、フロアのエアコンで室温を保ちながら換気を行い、飛沫が飛ばないようにと指導してまいりました。各学級、しんとした雰囲気書き初め鉛筆や筆を用いて丁寧に書き進める姿が見られました。昨年同様、校内書き初め展は、児童のみの公開となりました。温かみのある高学年の筆遣いに驚き、高学年は低学年の温かみのある書き初め鉛筆の筆跡を楽しんでいました。

新型コロナウイルス感染症への不安で登校が難しい子供がいます。家族が新型コロナウイルス感染症の陽性者となり、濃厚接触者として学校に来ることができない子供がいます。逆に、教員の指導の下、常に感染予防の指導を受けながら生活することで安心しながら学校生活（非子供）にとつての「社会生活」を送っている子供もいます。完璧な感染症対策が何かは誰にも分かりません。国も、東京都も、大田区も、久原小学校ももちろん、「その時点で最善」と思える対策を取りながら、現状を注視しつつ、「最善の対策」を少しずつ変化させながら対応しています。

先日、テレビで、宇宙飛行士とゲームクリエイターとの対談の番組がありました。まず宇宙飛行士が自身の職場で相手に自身の仕事について語り、話し合う。その後、

教育目標

歴史を誇る久が原の大地に 深く根を下ろし桜のように 明るく潔く、樺のように天高く伸びてゆく

久原小学校に学ぶ子は、

一、健康な子 二、考える子 三、やさしい子 四、礼儀正しい子

逆に、ゲームクリエイターが自身の職場に相手を誘い、自身の仕事について語り話し合うという番組です。

宇宙飛行士の話を聞いて心に感じたことは、地球を「外から」眺めることで地球の様々な生命に愛情を感じるのだということでした。

ゲームクリエイターは、自身の話の中で、ある短編小説の一節を引いていました。

「なわ」は、「棒」とならんで、もつとも古い人間の「道具」の一つだった。「棒」は、悪い空間を遠ざけるために、「なわ」は、良い空間を引きよせるために、人類が発明した、最初の友達だった。「なわ」と「棒」は、人間のいるところならば、どこにでもいた。（阿部公房「なわ」）

去年、この話を聞いていたら、「棒」としてソーシャルディスタンスのマークを第一に思い出していたことでした。しかし、今年は、「なわ」として様々なことが思い浮かびました。マスクをしながら話し合うこと、同じ方向を向きながら給食を食べつつお代わりをもらうこと、友達の良い食生活を共有すること、クロームブックを用いて自身の考えを皆で共有すること、リモートで授業を受ける児童のために、担任が教室だけでなく、様々なところへクロームブックを持っていくこと、最近の外体育で行われている長縄跳びの子供たちの笑顔……。

「なわ」と「棒」の違いの一つに硬さがあります。蔓延防止等の言葉を聞いても、柔らかな考えで様々な工夫をし、「わるいもの」を遠ざけるだけを考えるのではなく、「よいもの」を引きよせる方法を、教職員だけでなく、子供たちや保護者の方々、地域の方々で「互いに愛情を感じあえる地球に生きる生命」としての知恵を出し合っ

てよりよい学校にしていきたいと思っています。

これから、三月のまともに向けて久原フェスタ、六年生を送る会、そして卒業式、修了式と目指していきます。その時の状況に応じて様々な御協力や御理解をお願いします。ことが想定されますが、子供たちに「よいもの」を感じさせ、成長していったらうために、どうぞよろしくお願いたします。

外国語担当の上野梨花教諭が十一月一日から、五年四組担任の相木美紀主任教諭が、一月二十四日から、出産のための休暇に入りました。外国語の代替として新たに、山田美紗子教諭が火・水曜日と週三日、外国語の授業を担当します。また、五年四組の担任として、元算数少人数担当の三上真矢主幹教諭が担任となります。御理解・御協力をどうぞよろしくお願いたします。

2月の主な予定

日	曜	予定	備考	日	曜	予定	備考
1	火		SCS	16	水	B時程	
2	水	B4時程		17	木		SCU
3	木		SCU	18	金	久原フェスタ(お弁当)	
4	金	放課後算数補習教室(3年)		19	土	久原フェスタ(お弁当)	
5	土			20	日		
6	日			21	月	振替休業日	
7	月	全校朝会 クラブ活動(クラブ見学)		22	火	喫煙防止教室(6年)	SCS
8	火	安全指導	SCS	23	水	天皇誕生日	
9	水	B時程 放課後算数補習教室(4年~6年) 下校指導(1年)		24	木	がん教育(6年)・体育授業地区公開	OP☆ SCU
10	木	大田区漢字検定	SCU	25	金	新1年生保護者会 放課後算数教室(3)	
11	金	建国記念の日		26	土		
12	土			27	日		
13	日			28	月	全校朝会 委員会活動 薬物乱用防止教室	
14	月	全校朝会 高学年6時間授業					
15	火		SCS				

(備) SCS: 佐々木スクールカウンセラー来校 SCU: 浦山スクールカウンセラー来校
 OP☆: 校長室オープンデー (16時~18時) ※今月の避難訓練は予告なしで行います。

一年生 生活科

「にこにこ☆きらりん大きくせん」をふりかえって

一年担任 佐賀井 葉於

「にこにこ☆きらりん大きくせん」では、家族や友達などの周りの人の笑顔を増やしたいという思いをもって学習しました。家族がにこにこになるのは、「自分のことを自分でできた時」、「家の仕事をした時」、「なかよく過ごせた時」だと気付きました。それぞれの笑顔を増やそうと自分で作戦を立て、家庭や学校で取り組まれました。活動に取り組む中で、家族に助けられていること、自分にも家族のためにできることがあるということなどに気付きました。一年生の子供たちが、家族をにこにするために冬休みに取り組んだ活動と感想を紹介します。

○ くつをそろえると、げんかんがきれいになっていい気もちになりました。

○ みんなにじんせつにしたら、「ありがとう。」といわれてまい日じぶんもにこになりまし。

○ お手伝いをしてすごうれし、いろいろなことをじぶんでしたりできて、すくうれし、これからは、おんがやがよくてたのしかったです。

○ ないのしごとは大へんだったけれど、かぞくのみんながよくてたのしかったです。

○ かぞくがいつもやっていることをするとお手つだいになることがわかりました。

○ そうじをいっぱいこに、かぞくがにこにこになりまし。

○ わたしは、テーブルふきやカーテンしめをして、おんがやがよくてたのしかったです。

○ わたしは、にこにこきらりん大きくせんをまい日しに、おんがやがよくてたのしかったです。

○ ぼくは、おんがやがよくてたのしかったです。

○ わたしは十二月から、いえのにこにこをふやすために、大へんだったけれど、おんがやがよくてたのしかったです。

○ わたしは、せんたくたみをした。しごとをえめるときは大へんだったけど、おんがやがよくてたのしかったです。

○ ごはんの手つだいを、おんがやがよくてたのしかったです。

○ おうちの人のお手つだいをすると、おんがやがよくてたのしかったです。

○ べんきようをじぶんからやったら、かぞくがにこにこして、おんがやがよくてたのしかったです。

○ おうちで大せいこうしました。かぞくみんながにこにこして、おんがやがよくてたのしかったです。

○ ふゆ休みにおんがやがよくてたのしかったです。

○ かぞくといっしょにコーヒをついたとき、ちよつとげん気になつて、うれし。

声掛けやサポートをいただきありがとうございます。今回の取り組みによって家族をにこにこさせると、大きな自信へとつながりました。子供たちは、「これからにこにこ大きくせんを続けたい。」と意気込んでいます。家族の一員として、自分ができていることを考えて、取り組むことの大切さを引き続き指導していきます。

生活目標	寒さに負けずに過ごそう
給食目標	食事のマナーを身に付けよう
保健目標	外で元気に遊ぼう
安全目標	交差点では、左右をよく見てからわたろう

言葉にして伝えるエール

生活指導部 伊奈 真知子

学年のまとめの時期に、子ども自身が自分の成長を実感できるようにすることが、自己肯定感を高めるためにとても大切だと考えます。そこで本校では、一月を『励ましの期間』と位置付け、子供たちの頑張っている姿や成長した点を、これまで以上に教職員が一人一人に伝えるようにしました。漢字の学習ノートに、字が上手に書けるようになったことを褒めたら、授業中のノートも丁寧に書くようになったり、係活動を頑張っていることを褒めたら、さらに毎回協力してできるようになったり、一つ上の学年になることを意識しながら、自信をもって行動する姿が広がりました。

日々流れている中で、当たり前を感じるようになっていくことも、改めて言葉にして価値付けてあげること、自己肯定感を高めるために大切で、子供たち一人一人にエールを贈り、この一年間の成長を実感できるように、教職員一同、努めてまいります。

学校を支える・動かす「委員会活動」

特別活動部 相木 美紀

本校には九つの委員会があり、高学年になると、そのいずれかに所属します。朝から活動する飼育・栽培委員会（餌やりや芝生の整備）、運動委員会（体育館の換気・砂場の整備）、休み時間に練習や作成に取り組み、企画を披露する集会委員会、放送委員会、広報委員会（壁新聞作成）。主に休み時間に活動する給食委員会（栄養黒板・給食放送）、保健委員会（石鹸の交換・保健室での補助）、図書委員会（本の貸出や読書月間の取組）。そして久原小学校全体に目を向け、行事や学校生活について話し合う、代表委員会。どの委員会も、学校生活が快適になるよう常時活動に励むとともに、より魅力ある久原小学校になるような企画を考えています。

自分たちの学校生活が誰かによって支えられているというものは、低・中学年の頃にはなかなか気付くにくいものです。しかし、委員会ですら活動に取り組むことで、「一人一人が役割を果たすこと」で、学校生活全体が作り上げられている「ことへの実感」が生まれます。そして、その経験の積み重ねは、将来きつと、社会で必要な仕事の一端を担い、互いに貢献しあうことへの子供たちの意欲につながっていくことではないでしょうか。コロナ禍で活動に制限がある中でも、子供たちは創意工夫を取り組んでいます。今年度も残り二か月。最後まで高学年として学校を支え続けてくれることを期待しています。